

2021年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2021年3月

学校法人亀ヶ谷学園

幼保連携型認定こども園・宮前おひさまこども園

① 園の教育目標

- ・わくわく生き活きと輝き創造的にあそべる子ども
 - ・わくわく人が好きになり、人に好かれ、思いやれる子ども
 - ・わくわく響関の言葉が言え、秩序が気持ち良いとかんじられる子ども
- わくわく響き合える豊かなところをもった子ども

② 本年度に定めた重点目標

認定こども園移行初年度であることも踏まえ、以下の3つを重点目標として定めた。

- ・子どもたちの主体的なあそびや生活の実現
- ・園内研修を通して課題解決を図り、保育の質を高め、保育者の専門性を深める。
- ・歳児別の目標
 - 幼児：おひさまこども園の環境（少人数・異年齢の自然なかかわり等）を生かした保育実践
 - 乳児：安全と養護を最優先課題として実践・研修を通して教育としての乳児保育の深める

③ 具体的評価項目の達成及び取り組み状況

項目	評価	取り組み状況
教育目標	A	園の教育目標については全ての職員が共感・理解し、日々の保育実践を通して実現できるよう努力して取り組んでいる。
保育計画	A	子どもの興味・関心から計画を立案できるように配慮している。 幼児は、子どもたちの興味・関心が高いあそびをウェブマッピングの方法でより遊びが豊かになるような環境を考えたり、乳児は写真を活用した記録を取り組んだりしながら、職員間の対話が生まれるように配慮している。 子どもの実態に即した計画を立案できるように取り組んでいる。
保育環境	A	玄関ホールでアトリエを開催するなど、全体スペースを有効に活用し、子どもたちの経験が豊かになるように努めた。今後は、園舎や園庭等の環境を最大限に活用していきたい。
安全への配慮	A	新型コロナウイルスの感染拡大に努め、消毒・清掃など隅々まで行き渡るように意識をしていた。 園庭のアスレチックの使用方法なども乳児クラスは職員間での共通理解を図りながら検討することができた。
チーム保育・同僚性	A	年齢・経験年数が異なる幅広い保育者集団の中で、それぞれが尊敬の念を

		<p>持ちながら接することを大切にしていきたい。業務上の課題については、建設的な話し合いを通しての解決を目指している。</p> <p>同僚性向上のために、大学教授に定期的に園内研修を実施していただき、法人としての重要課題として取り組んでいる。</p>
保育内容・方法	A	一人ひとりを大切にしたい保育実践を職員の目標としている。子どもたちのケンカやトラブルの場面も育ちのための一場面と捉え、教育的な意図をしっかりと持って対応していけるようにしていきたい。
乳児保育	A	緩やかな担当制の中、一人ひとりの生活リズムに沿った生活の実現を目指している。保育者の連携やシフトの工夫など来年度以降もより良い方法を探っていきたい。
保護者とのかかわり	A	<p>ポートフォリオや写真等、可視化された記録を用いながら子どもの育ちを伝える取り組みが一定の評価を得ている。外部研修の講師を務めることも多数ある。子どもを真ん中に、園と保護者が手を取り合っって子どもの育ちにかかわる関係性を築いていきたい。</p> <p>また、現在副園長が大学院に進学し研究を進めている。</p>
職務の遂行	A	それぞれ自分の役割を自覚し、責任を持って業務にあたっている。
専門性の向上	B	新型コロナウイルスの拡大により Zoom 等による遠隔研修に気軽に参加できるようになった。一方で、職員全体で集まる機会などが十分に確保できなかったことが課題である。
食育	B	感染拡大の懸念から以前のような食育活動が行えなかった。また、保護者の試食等も中止している状況なので、感染状況を鑑みながらできる限り早く以前の食育活動を実施していきたい。
子育て支援	B	すくすく広場は引き続き中止となっている。一方で、戸外で活動できる園庭開放あおぞら広場では、平均20組以上の未就園児親子が来園し、園庭でのあそびを楽しんでいた。今後も継続して取り組んでいきたい。
地域との連携	B	<p>認定こども園へ移行したことにより、これまで以上に川崎市や宮前区といった行政とのつながりが深まった。</p> <p>子どもたちが地域に出かけたり、地域資源を生かした活動が十分に行えなかった。</p>

④ 総合的な評価結果

A	<p>幼保連携型認定こども園としては開園から4年目を迎える年であった。新型コロナウイルスの感染拡大という難題が突きつけられたが、これまで当たり前になっていた保育の見直しを進める良い機会にもなった。「子どもにとって」を合言葉にしながら、職員一同力を合わせて保育に取り組むことができた。</p>
---	---

評価

A：十分達成されている

B：達成されている

C：取り組まれているが、成果が不十分でない

D：取り組みが不十分である

⑤ 今後取り組むべき課題

保育環境	幼保連携型認定こども園の特徴でもある、在園時間が異なる子どもたちへの配慮も含め、子どもたちの園生活を見直し、よりよい生活となるように工夫していきたい。
保育内容	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、食育活動や行事などが大幅な見直しを余儀なくされた。子どもにとっての経験を第一に考えながら、よりよい形を模索していきたい。

⑥ 施設関係者評価（自己評価の結果を踏まえて実施）

環境については、子どもたちにとって、とても充実した環境であり、わくわくが詰まっている園庭である。おひさまこども園の子どもたちも積極的に宮前幼稚園の園庭で遊べる環境がとても良い。また、フリーの職員がたくさんいて、安心できる。どの園児にも優しく接してくれることがありがたい。

保育内容については、新型コロナウイルスで中止になった行事などがあり残念ではあるが、運動会の分散実施や3学期のチャレンジ活動など、今の状況の中で最善の方法を取ってくださっているのが伝わりとても感謝している。

給食の試食ができないのが残念であり、子どもたちへの食事の参考にしているので感染状況が落ち着いたら復活していただきたい。

今後も、子どもを中心とした園の運営をしてくださることを期待している。